

地区の名人も登場！ 昔遊びで楽しく地域がつながる

1月31日(日)、多賀城市高橋地区で開かれた昔遊びの会。大人にとってはなつかしく、子どもにとっては新鮮な昔遊びが、けん玉や竹馬、紙芝居など11種類登場しました。今回の企画は、さまざまな世代の人たちが交流できる機会をつくろうと高橋地区のみなさんがアイデアを出し合って実現しました。話し合いには、町内会役員だけでなく地区の方に広く呼びかけ、お父さん、お母さん、子どもたちも

参加しました。2月からは、地区のみなさんが気軽に集まって朝ごはんを食べる会「サンデーモーニングカフェ」もはじまります。これらの取り組みを通して住民同士が顔見知りになり、日常的に地域のつながりをつくっていくそうです。



詳しくはたがさぽPressへ！ [2016年2月14日(日)掲載]
昔遊びで、世代と地区を越えた地域の交流

歴史名人



地域の歴史に詳しい方から、史跡や桜の名所について教えてもらっているお母さん。「多賀城に長く住んでいるけどまだまだ知らないことがたくさんありました」と喜んでいました。

折り紙名人



折り紙名人による折り紙教室。地域の折り紙サークルで学んだ成果が発揮されます。子どもが楽しめるように流行のキャラクターを折りました。

竹馬名人



竹馬名人が子どもたちにコツを伝授。「今度は今の遊びをしたい！」と意気込む子どももいました。逆に子どもたちがおじいちゃん・おばあちゃんに今の遊びを教える会もおもしろそうですね。

学生も活躍



東北学院大学(泉キャンパス)の学生による手づくり紙芝居。子どもも大人も食い入るように観ていました。地域には学生たちの力も大事です。



ヒント from “たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ

<http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● **活動する前に整理しておきたい「理想」と「現実」** 2016年1月19日(火)掲載
自分の想いや考えをカタチにするために、何が必要かを書き出してみました。そうすることで、自分のしたいことやできることが明確になってきます。

● **ランチで地域のつながりづくり** 2016年1月21日(木)掲載
愛知県のNPO法人ナイチンゲールが1月1回開催している「ランチボックスカフェ」。ランチを食べながらのおしゃべりが、新たなつながりのきっかけに。

● **「May I help you ?」のおせっかい活動** 2016年1月28日(木)掲載
道がわからず困っている外国人観光客に声をかけ、道案内などのおせっかいをやく「おせっかいジャパン」。黄色のユニフォームが目印です。

“たがさぽPress”とは？

たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ！ ＊ケータイ、スマホからご覧いただけます。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

tag 配架先募集のお知らせ

たがさぽでは、多賀城市内およびその周辺で「tag」を置いていただけるお店や施設を募集しています。枚数は5〜20枚程度で、送料は当センターが負担いたします。お客さんや利用者の方にもっと多賀城のことを知ってもらいたい、地域に密着したお店・施設にしたいという方はぜひご連絡ください。【連絡先：022-368-7745】



これまでの配架先例

- t コンビニ
- t スーパーマーケット
- t カフェ
- t 福祉施設
- t 病院 t 銀行



1000年先の未来まで 語り継ぎたいあの日のできごと

東日本大震災の翌年から毎年3月11日に開催されている追悼の行事「多賀城・万灯会～鎮魂の灯～」。
主催団体であるNPOゲートシティ多賀城のメンバー・松村正子さんに開催の経緯や想いについてお話をうかがいました。

1000年前の多賀城でも行われていた儀式

NPO ゲートシティ多賀城は、特別史跡・多賀城跡を観光資源として活用を図り、魅力とにぎわいのあるまちづくりをめざして2007年に活動をはじめました。主に、多賀城跡の南北大路標示や万葉植物の植栽などの事業を行っていますが、震災後は「万灯会」の開催にも関わるようになりました。

「万灯会」とは、数多くの灯明をともして仏をまつり、供養する仏教行事の一つです。古代の多賀城では、貞観地震（869年）で犠牲になった人々の供養のために「万灯会」が行われていたと考えられており、市内の山王遺跡や高崎遺跡からはこの時に使用されたと思われる灯明皿がたくさん発見されています。



「万灯会」の会場準備の様子。ボランティアのみなさんがひとつひとつ手作業で灯明皿を並べます。

鎮魂の想いに包まれる光の広場

震災から1年経った2012年3月11日、市が主催して政庁跡で第1回の「万灯会」が行われました。その後、NPOゲートシティ多賀城が市内各団体の協力も得て自主開催しています。また、より多くの方が参加できるように、会場をJR仙石線多賀城駅前広場に移して行うようになりました。

当日は市内で亡くなられた188名の方々の慰霊の意味を含め、188個の灯明皿に灯りをとめます。また、市民のみなさんからのメッセージが書かれた紙コップにキャンドルで火をともした「3.11」の光文字が浮かび上がります。ご家族を亡くされた方が遠方から訪れて祈りをさげたり、親子連れがお子さんの書いたメッセージを探しに来る姿も見られました。



メッセージ入り紙コップに灯りをとめます。数は年々増えていて、昨年は約300個集まりました。

東日本大震災の記憶を後世へ伝えたい

震災から5年。時間の経過とともに記憶は徐々に薄れていくかもしれません。しかし、復興への思いを新たにするとして毎年3月11日に「万灯会」を続けていくことで、市民のみなさんに1年に一度でも震災のことを思い出してもらい、より若い世代、震災を知らない世代にも震災のことを伝えていきたいとNPOゲートシティ多賀城では考えています。

「東日本大震災をきっかけにして、1000年以上前の災害や『万灯会』のことを現代の私たちが知ったように、1000年後の人たちにも東日本大震災のことを知ってもらいたい」と松村さんは話してくれました。

多賀城・万灯会 ～鎮魂の灯～

2016年3月11日（金）
JR仙石線多賀城駅前広場
17:30～
紙コップメッセージ受付開始
18:00～19:00
灯明皿、キャンドル点灯

どなたでもご参加いただけます
紙コップへのメッセージは
事前にも受け付けています



鎮魂と復興の灯がつくり出す「3.11」の光文字

メッセージの事前受付の場所ほか、
くわしくはこちらから

ゲートシティ多賀城

<http://gatetajyo.web.fc2.com/>



「tag」には、多賀城（tagajo）の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ（価値）をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやってます。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>